

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】					<div> <div>【達成状況（自己評価）の目安】</div> <div> <div>◎：年度目標以上のものが達成できた場合</div> <div>○：年度目標が概ね達成できた場合</div> <div>△：年度目標の一部が達成できた場合</div> <div>×</div> <div>：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合</div> </div> </div>			
地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、N P O、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・復活した活動の内容充実を図る。	・アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動を復活、再生することができた。 ・あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を2回、区高齢障害支援課と千葉西警察署移動交番の協力による防犯講座1回を開催した。 ・地域運営委員会、中学校の学校評議会、公民館の運営懇談会、朝日ヶ丘小学校区体育祭が再開され、それぞれ部会長が出席した。 ・地区内の高齢者福祉施設3施設との運営推進会議は、1カ所を除いて再開した。	○	・復活した活動の内容充実を図る。 ・令和8年度に地区部会創立30周年を迎えるため、30周年記念事業の準備を行う。	・あんしんケアセンターの運営主体が変わったことに伴い、改めて連携の在り方について協議し、活動する必要がある。 ・中学校の土日休日の活動の中止・外部化に伴い、社協の活動の場としての利用が困難になる可能性があるが、中学校との協議により、継続を図りたい。
	3 地域情報の発信と 人材発掘・育成の仕 組みづくり	○	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・広報紙の内容充実を図る。	・これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通しての広報活動の方策の検討（他地区の事例調査、広報に関する住民、関連団体の意向調査など）を始めたが、有効な手段が見えてこない。 ・広報紙面の構成を刷新し、写真が多く見やすい形に変えた。 ・地区内自治会等の掲示板を用いての広報を強化している。 ・地区部会常任理事会において、とくに人員拡充に関する方策案を各委員会に求め、それを軸に、広報に特集記事を掲載した。これまで4名の新規参加者を得ることができた。 ・地区の文化祭において、地区部会の活動を広報するためのパネル展示を行った。その結果、新たに1名の参加希望者を得ることができた。	○	・広報紙による情報発信の充実。 ・令和8年度の当地区部会の創立30周年に備えて、記念事業の準備を開始する。	・管内自治会の会員の高齢化、減少が続いている。令和6年度で解散する自治会も出てきた。自治会から退会した高齢世帯、自治会に加入しない若い世帯への広報がますます困難になる。 ・社協スタッフの高齢化も続いているが、積極的な募集活動が続ける。 ・地区内自治会等の掲示板を見てイベントに参加する方が多いことが分かり、掲示板を用いての広報を強化している。
<div> <div>犢橋地区部会エリア</div> <div> <div>【人口・世帯数】</div> <div>10,501人、5,639世帯</div> <div>【町内自治会数】</div> <div>15町内自治会</div> <div>【高齢化率】</div> <div>29.9%</div> <div>【地域の特徴】</div> <div>昔からの農村地域（犢橋町）と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。</div> </div> </div>	1 心身の健康と交流 の場づくり	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「こども食堂」の一環としてフードパントリー（年6回）、夏休みカレー食堂の継続実施。 ・子どもと高齢者が交流できる場を地区内数カ所に分けてつくる。 ・「餅つき大会」を実施する。	・「子ども食堂」の一環として、フードパントリー（年6回）開催。 ・「夏休みカレー食堂」の継続実施（参加人数は昨年の倍に）。 ・「餅つき大会」の復活実施（12月1日、参加人数は約200名にのぼり大盛況に）。 ・「防災教室」の実施（3月2日、約80名が参加、今回は大人も参加）。	○	・「フードパントリー」「夏休みカレー食堂」や「餅つき大会」を開催。さらには花見川いきいきプラザとタイアップして高齢者向けイベントを開催する。	・「防災教室」の継続実施。 ・子ども食堂の一環として開催している「フードパントリー」の継続実施（2ヵ月毎に）。 ・「夏休みカレー食堂」「餅つき大会」の継続実施。

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
こてはし台中学校区地区部会エリア	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を4回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する（自治会との協働）。	・11月に見守り対象者を含めた「ふれあい秋フェスタ 〜ポッチャを楽しもう〜」を開催した（約80名が参加）。 ・12月にポッチャ大会の報告を兼ねた「見守りたより」を発行、また、3月にも「見守りたより」を発行し、見守り対象者、町内自治会に配布、回覧した。 ・各支部のふれあいサロン活動、食事を継続実施した。 ・2月に約60名参加の地区全体の食事を実施、併せて地区の情報交換を実施した。 ・昨年度に続き、地域にある「県立特別支援学校」主催のミニ集会や授業参観などに参加し、交流と理解を深めた。 ・見守り活動を継続実施。	○	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を4回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する（自治会との協働）。	・見守り活動の継続実施と各支部のふれあいサロン活動の開催。 ・ポッチャなどのイベント開催。 ・広報活動の継続実施。 ・横戸台では、見守り希望者が増えているため、今後検討が必要である。
【人口・世帯数】 5,269人、3,551世帯								
【町内自治会数】 10町内自治会								
【高齢化率】 29.9%								
【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村								
幕張・武石地区部会エリア								
【人口・世帯数】 5,690人、2,924世帯	1 心身の健康と交流 の場づくり	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあいいきいきサロンを月2回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年4回実施する。	・「ふれあいいきいきサロン」は、月2回実施することができ、内容の充実を図ることができた。 ・「ふれあい食事サービス」は、年4回実施することができ、その内2回は会食及び配食での実施ができた。	○	・ふれあいいきいきサロンを月2回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年4回実施する。	・「いきいきサロン」は、今後も内容の充実と、参加者の増加を図っていく。 ・「食事サービス」は、会食者の負担を軽くするために会食会場を近くにする。
【町内自治会数】 3町内自治会								
【高齢化率】 20.3%								
【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。								
2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	千葉市から提供された避難行動要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行ない、支援者宅の訪問を行うことができた。	○	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	町内自治会により、取り組み(支援体制)に差がある。
2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり								
花見川地区部会エリア	1 心身の健康と交流 の場づくり	○	⑧ ・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座の開催や声かけ訓練などを実施します。	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	・認知症サポーターステップアップ講座として、あんしんケアセンター幕張との連携による認知症予防のための講座「睡眠と健康」の開催や花見川いきいきプラザとの連携による「健康テレビゲーム体験」を実施した。	○	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。
【人口・世帯数】 10,441人、4,534世帯								
【町内自治会数】 18町内自治会	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあい3事業は76サークルでスタート。 ・敬老会の開催、地区子ども会行事の開催。	・ふれあい3事業は12月末現在で79サークルが活動中。 ・敬老会は7ヶ所（7会場）で開催。出席者396名、出席率21.5%。 ・柏井地区子ども会育成連絡会 主催 「みんなで歩いてビンゴ」 11/23開催、86名参加。	○	・ふれあい3事業を95サークル。 ・敬老会の開催、地区子ども会行事の開催。	・ふれあい3事業は高齢化に伴い、当初目標が困難になってきた。 ・敬老会は、単独自治会、サークルでの開催を推進したい。 ・地域参加支援事業（元気会など）の活性化。
【高齢化率】 39.3%								
【地域の特徴】 戸建住宅（昭和30年代後半より入居）、農林地帯、UR団地（分譲）、マンション群の混在地域。								
2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり								
2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り活動の推進 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練 ・地域ケア会議の開催	・見守り活動実施中（2自治会、3サークル 対象人数88人） ・「みんなで歩いてビンゴ」で高齢化社会の諸問題を小学生向けにクイズで問いかけ。 ・地域ケア会議を2ヶ所3自治会で実施。6、9、12月開催、3月開催予定。	○	・見守り活動の推進 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練 ・地域ケア会議の開催	・少子高齢化に伴い、活動が衰退化する方向であるが、その打開策として、1自治会、1地域でなく、より大きな範囲での活動を心掛ける。 ・柏井地区ふるさとまつりが復活開催された。
2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり								

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
	4 安全・安心なまちづくり	○	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	・防犯・防災活動の実施。	・防災、防犯パトロールを毎月実施。3自治会52人／月（4～12月平均）。 ・歳末防災防犯パトロール6自治会実施。 ・防災訓練実施 千代の台10/10（57名）、花見川住宅、5街区、花見川こうやまき、南柏井12/14（63名）、鷹の台1/19（約60名）。	○	・防災、防犯活動の実施。	・コロナ禍で縮小、中止された事業も個々に復活。 ・避難所運営委員会と併催しながら開催。
花見川第2地区部会エリア	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川団地内で実施している支え合い活動「ハンド ハンド」を継続実施した。主な活動は、家具の移動、電灯の交換、粗大ゴミ降ろし、話し相手、ごみ捨て、掃除などであった。 ・活動の普及・啓発については、8月と3月の年2回、地区部会だよりを発行し、地区部会活動の紹介を行った。 ・他地域でも、支え合い活動を組織化したいという気持ちはあるが、高齢化が進んでおり、なかなか難しい状況である。	○	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・地域全体が高齢化しているため、担い手不足が深刻化している。 ・花見川団地以外の地域への活動普及が進まない。 ・花見川団地内の支え合い活動を継続するとともに、地域全体に活動の機運が広まるよう、引き続き広報啓発活動に努める。
【人口・世帯数】 10,646人、 6,493世帯								
【町内自治会数】 7町内自治会								
【高齢化率】 40.0%								
【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・昨年に続き、花見川いきいきプラザ、花見川いきいきセンターの職員を講師に迎え、2月6日、13日、19日の3日間、健康体操教室を開催、高齢者の介護予防に努めるとともに、担い手の確保、担い手のスキルアップに努めた。 ・広報啓発については、8月と3月の年2回、地区部会だよりを発行し、地区部会活動の紹介を行った。 ・その他、地区部会の行事（グラウンドゴルフ、食事会等）を通じて、地区部会の広報啓発活動に務める。【グラウンドゴルフ：3/6、14、21実施、食事会：3/4、11】	○	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・担い手不足は、深刻な問題であるが、引き続き、養成講座開催や広報紙を活用した担い手の育成・確保に努める。
	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑬ ・地域住民や子どもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民や子どもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・子ども達の居場所（花見川団地子どもカフェ）の運営を継続するとともにを立ち上げるとともに、内容の充実に努める。	・昨年度（令和5年9月）より、花見川団地内のレンタルスペース「はなみがわLDK+」にて開始した、子ども達の居場所「花見川団地子どもカフェ」の活動を継続した。 今年度も、毎月第2土曜日の10時～12時に実施、毎回10名前後の子ども達が参加している。令和7年1月は、JEFの選手によるイベントも企画、選手からランチョンマットのプレゼントもあり、子どもたち大変好評であった。	○	・子ども達の居場所（花見川団地子どもカフェ）の運営を継続するとともに、内容の充実に努める。	・団地内に子どもが少なく、参加者が少ないのが課題である。

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
こてはし台地区部会エリア <div>【人口・世帯数】 5,711人、2,859世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 44.2% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心（テラスハウス25%）の住宅街。</div>	1 心身の健康と交流の場づくり	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・年数回の交流の場を開催する。	・「喫茶室“つどい”」は8月から自治会館の館耐震工事で休止していたが、9月より再開し利用者は休止前の水準（約50名強/日）まで回復している。 ・「子育てサロン」は保健師、地域保健推進員、栄養士、歯科衛生士さらに多くのボランティアの方の協力を得て実施することができ、徐々に参加者が増えてきている。 ・「ふれあい食事会」は自治会館の館耐震工事で予定より4回少ない5回で実施した。 ・「いきいきサロン」、「ふれあい散歩クラブ」は2つの老人クラブで実施している。 ・認知症、障害のある方やその家族の方が集える交流の場づくりは「○○カフェ」が、あんしんケアセンターこてはし台や障害者福祉作業所と連携し、実施されている。	○	・「喫茶室“つどい”」と交流の場を、同一箇所で実施することについて検討する。	・各活動を継続して実施しつつ、参加者を増やす工夫をしていく。
天戸中学校区地区部会エリア <div>【人口・世帯数】 16,882人、7,937世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.1% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。</div>	1 心身の健康と交流の場づくり	○	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	・新規事業の具体的な実施時期・内容等について検討する。	・新規事業の体的な実施時期・内容等についての方針はまだ達成できていない。	×	・地域運営会議に参画したので、連携し新規事業の検討をする。	・今後も検討を続ける
	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・「地域ケア会議」で検討された課題について検討する。	・9月に開催された「地域ケア会議」に参加し、今後の地域福祉活動の担い手をいかに確保するかについて意見交換を行ない、2月に第2回目の「地域ケア会議」に参加の予定。 「横戸台・こてはし台ボランティアの会」とは常に連携している。	○	・「地域ケア会議」で検討した課題について検討する。	・「地域ケア会議」での意見交換を元に活動の見直しをする。
	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・公共機関（図書館・公民館）などの協力を得て、住民に役立つ情報を収集、発信する。	・「街づくりホームページ」の内容の更新を行った。	△	ホームページ内容の検討と同時にSNSの活用についても検討を進める。	・「街づくりホームページ」の更新では自治会とも連携し、チームを編成し実施していく。また、SNSによる発信も継続して行う。
	1 心身の健康と交流の場づくり	○	② ・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	・地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	・地域におけるサロン活動の活発化を目指し、リーダーとしてサロン活動を主導できる方(地域資源の発掘と地域活動への参加の促進)、行政窓口、あんしんケアセンター花見川、花見川区健康課、花見川いきいきプラザ・センター等の協力を得ながら、サロン活動を行うことができた。	△	・地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	・地域福祉を担当する方々への更なるステップアップとリスクリングを目的としたセミナーの開催の充実を目指します。
	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑤ ・既存のサロンなど身近な場所や専門機関による相談の場を設けたり、民生委員やあんしんケアセンターなどの相談先の紹介を行います。	・広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・ホームページやSNSを活用して地域活動の告知を進めることができた。 また、昨年から始めたセミナーに、地域の方々からの聴講者が徐々に増加しており、行政が進める地域福祉制度を知って頂くことに貢献することができた。	△	・広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・SNS・メールマガジンを使い地域で起きている事を地域の方々に知って頂く活動が必要と考えます。

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じて、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・平常時における緊急通報システム、非常時の避難方法はコロナ禍以後、在宅避難、分散避難に変わりつつある中、地域指定避難施設や非常用井戸の登録、LPG発電設備設置等を設置することにより平常時、非常時における安全対策がある程度できた。	△	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じて、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・平常時の安心安全と発災時の安心安全確保のため本気で活動できる組織の構築が喫緊の課題と考えます。
	3 地域情報の発信と 人材発掘・育成の仕 組みづくり	○	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	・情報発信ツールとしてのメールマガジン、ホームページ等を通じて地域福祉活動の情報発信を行い、メルマガ会員数を増加することができた。	△	・広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	・地域で起きた事をSNS・メールマガジンで地域の皆様に知って頂く事が必要と考えます。
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア	1 心身の健康と交流 の場づくり	○	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	『福祉まつり』を年1回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	・令和6年6月9日（日）に、第12回『福祉まつり』を開催。 ・令和6年12月8日（日）障害者福祉委員会による「福祉フォーラム」を2年ぶりに開催。 ・令和7年3月7日（金）児童母子福祉委員会による「食と子育て」を開催。 地域住民、学校、福祉関係施設や団体、ボランティアなど、多くの方々の協力のもと、広い世代に福祉に触れる機会を設けた。	○	・『福祉まつり』を年1回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	・引き続き、『福祉まつり』をはじめ、福祉関係行事を開催 ・当地区部会発足20周年、また地域にある横橋貝塚が発掘100周年祭（10/25）の開催を予定していることから、福祉まつり等を記念行事として開催し、多世代交流の活性化を図っていきたい。 ・「あいさつ運動」も継続し、『福祉まつり』の中でもアピールしていく。
【人口・世帯数】 10,277人、5,357世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.3% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。								
	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動の実施、緊急通報システムや安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施。	○	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、ボランティア活動の周知と改善に努める。 ・ボランティアの確保に努める。
畑地区部会エリア	2 支え合い、助け合 いのできる地域社会 づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を実施する。	・朝のごみ出1回。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業定期運行7月より月1回運行実施。 毎回4～5名の方が参加、10月（1名）、1月（1名）と参加者が増え、2月は車2台で実施。	○	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を継続実施する。	・朝のごみ出し支援活動を継続するとともに広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、引き続き定期運航を実施。参加者が増えた場合の対応について検討する。
【人口・世帯数】 6,197人、2,908世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 30.9% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。								